

## (2) 「公安」に対するイメージ

警察から受ける印象を調べるために用いた項目と同じ12項目を提示してそのなかから公安から受ける印象をいくつでも選ぶよう求めたところ、最も多くの回答者が選択したのが「秘密主義」(50%)、次いで「高圧的な」(33%)、「いかめしい」(29%)であった。反対に最も公安に相応しくないと思われるのが、「親しみのある」(5%)、「不偏不党」(7%)、「親切な」(9%)の項目である(図表2-2参照)。

顕著な性差は「秘密主義」と「高圧的な」の2項目にみられ、それぞれ10ポイントの差で男性の方が女性よりも厳しい見方をしている。

世代によって公安から受ける印象も大きく異なり、特に「秘密主義」については、50代以降の男性と、60代の女性では6割を越えているのに対し、10代の男女では3割程度に過ぎない。その他の項目については一貫して傾向は認められない。

次に警察官と話した経験と公安から受ける印象との関係のみてみよう。

「秘密主義」については警察官との会話経験が豊富な回答者ほど公安から「秘密主義」という印象を受けており、会話経験の全くない回答者の倍となっており、警察にとってはその対応の在り方に問題を提起しているともいえる。

「高圧的な」と「いかめしい」という項目についても同様に、警察官と会話経験が豊富な人ほど「公安」は「高圧的な」で「いかめしい」と感じている。

反対に、「公正な」「親切な」という積極的な印象を意味する項目については、警察官と会話経験のない人ほどこのような印象を抱いていることがわかる。

また警察に協力可能な時間との関係を見ると、「協力しない」と応えた回答者は、協力をする回答者に比べ、「高圧的な」で「こわい」という印象をもつ者が際立って多い。

図表2-2 「公安」の印象

	頼りになる	不偏不党	秘密主義	冷静な	親切な	公正な	正義の味方	怖い	高圧的な	親しみある	いかめしい	信用できる
全体	12	7	50	22	9	22	11	22	33	5	29	15
10代 男	18	7	29	18	7	18	7	7	21	4	32	7
10代 女	13	17	35	13	9	26	9	17	30	0	17	13
20代 男	8	8	52	22	7	14	5	21	44	1	27	9
20代 女	10	9	38	27	11	31	11	11	25	9	25	14
30代 男	5	7	61	23	5	26	8	20	38	4	31	12
30代 女	12	4	39	28	15	21	5	15	22	5	26	15
40代 男	10	8	50	20	5	28	7	16	28	3	23	18
40代 女	9	6	56	29	7	21	19	25	34	9	38	15
50代 男	19	10	67	22	10	19	19	38	48	5	33	24
50代 女	23	4	49	14	9	21	20	31	26	7	29	17
60代 男	13	9	65	17	0	17	17	39	39	4	30	17
60代 女	22	9	61	13	17	26	4	22	35	9	35	30
会話経験												
何回もある	11	8	60	18	7	23	7	29	35	6	31	15
少しある	13	7	47	24	9	21	13	20	32	4	29	16
全くない	13	9	30	13	17	44	9	13	26	9	17	13

### (3) 交番の評価

「お宅に一番近い交番」と交番を特定したうえで交番についてどう感じているかを「入りやすい－入りにくい」「親しみやすい－親しみにくい」「頼りになる－頼りにならない」「信用できる－信用できない」「明るい－暗い」の5つの側面を5件法で尋ねたところ、次のような結果が得られた(図表2－3参照)。

すべての側面について中間回答が少なくとも約6割と圧倒的に多くなっているために中間回答を除き、回答の両極を比較してみよう。

図表2－3 最寄りの交番のイメージ

	強く	かなり	中間	かなり	強く
入りやすい－入りにくい					
親しみやすい－親しみにくい	1	11	68	17	3
頼りになる－頼りにならない	1	22	59	15	3
信用できる－信用できない	3	31	57	7	2
明るい－暗い	1	14	67	17	2

「親しみにくい」が2割、「暗い」が19%と「親しみやすい」「明るい」よりも多くなっているが、「入りやすい」が2割、「頼りになる」が23%と否定的回答よりも多く、特に「信用できる」という信頼度の点では34%と高くなっている。

回答に性差はほとんど認められない。年齢差については、男女とも若い層が比較的「入りにくい」「親しみにくい」「信用できない」と感じる傾向がある。

交番にたいする受け止め方を警察官との会話経験の頻度で分析すると、会話経験が全くない人は交番を「入りにくい」と感じる傾向があることがわかる。同様に、「親しみやすさ」についても警官と会話経験が全くない人は会話経験のある人に比べてかなり「親しみにくい」と感じている。反対に、会話経験のある人ほど「頼りになる」「信用できる」「明るい」ととらえている。

警察に協力する時間については、交番は「入りにくい」「親しみにくい」と強く感じている回答者と、「頼りにならない」「信用できない」「暗い」とかなり感じている回答者が「協力しない」と答えている。

また警察への協力のしやすさについても「非常に協力しにくい」という回答者ほど交番は「入りにくい」「親しみにくい」「頼りにならない」「信用できない」「暗い」と受け止めており、協力しやすいとしている回答者とは顕著な違いをみせている。

婦人警官の数についても興味深い結果が得られている。つまり、婦人警官を現在よりも30%以上増という大幅増加希望の回答者は、それほど大幅な婦人警官の増加を希望していない回答者に比べて、格段に交番が「親しみにくい」「頼りにならない」「信用できない」「暗い」と感じているという結果になっている。婦人警官が大幅に増えれば好ましくない現状が改善されると考えているということではないだろうか。

#### (4) 「男性警察官」のイメージ

「礼儀正しい」「公正」「融通がきく」「明朗」「信用できる」「いばる」「親切」「頼りになる」「カッコいい」の9項目を用いて4件法で測定した男性警察官のイメージの結果は図表2-4に示す通りである。

男性警察官のイメージの全体像は、「少し公正」で「少し信用でき」、「少し親切」で「少し頼りになる」というところであろう。以下、各項目に対する評価を細かくみてみよう。

「礼儀正しさ」については、回答者の10人に1人は男性警察官が「非常に礼儀正しい」と思っているが、6割近くは「少し礼儀正しい」と捉え、25%は「少し礼儀に欠ける」としている。

警察官との会話経験との関係を見ると、会話経験の多少に関わりなく「少し礼儀正し

図表2-4 男性警察官のイメージ

	礼儀正しい						公正				融通がきく							
	非常に礼儀正しい		少し礼儀正しい		非常に礼儀に欠ける		非常に公正		少し公正		非常に融通がきく		少し融通がきく		非常に融通がきかない			
	11	10	11	59	25	5	12	14	11	65	20	3	2	2	2	39	42	17
全体	11	10	11	59	25	5	12	14	11	65	20	3	2	2	2	39	42	17
男	10	55	64	55	30	5	14	5	62	20	4	4	2	2	35	41	21	
女	11	64	21	64	21	4	11	4	68	19	2	2	2	2	42	44	13	
会話経験 何回もある	8	55	30	55	30	7	11	7	65	17	7	7	2	2	39	40	20	
少しある	12	60	24	60	24	4	13	4	64	21	2	2	2	2	39	43	16	
全くない	9	74	17	74	17	0	9	0	74	13	4	4	4	4	26	57	13	

	明朗						信用できる				威張る							
	非常に明朗な		少し明朗な		非常に陰気な		非常に信用できる		少し信用できる		非常に信用できない		非常に威張る		少し威張る		非常にやさしい	
	5	6	5	54	38	2	9	10	8	66	22	4	15	17	14	49	34	2
全体	5	6	5	54	38	2	9	10	8	66	22	4	15	17	14	49	34	2
男	6	50	57	50	41	2	10	2	65	22	4	17	30	30	51	30	2	
女	5	57	34	57	35	2	8	2	67	21	4	14	37	37	47	37	2	
会話経験 何回もある	6	57	34	57	34	3	8	3	69	18	5	21	34	34	45	34	1	
少しある	6	53	39	53	39	2	9	2	65	23	3	14	34	34	50	34	2	
全くない	4	44	48	44	48	4	9	4	57	30	4	9	30	30	57	30	4	

	親切						信用できる				カッコいい							
	非常に親切		少し親切		非常に不親切		非常に頼りになる		少し頼りになる		非常に頼りにならない		非常にカッコいい		少しカッコいい		非常にカッコよくない	
	8	9	8	64	24	4	13	14	13	66	17	4	4 <td>4</td> <td>4</td> <td>39</td> <td>43</td> <td>15</td>	4	4	39	43	15
全体	8	9	8	64	24	4	13	14	13	66	17	4	4	4	39	43	15	
男	9	60	69	60	27	5	14	5	65	18	4	4	4	4	35	44	18	
女	8	69	21	69	21	3	13	3	68	16	3	3	4	4	43	41	12	
会話経験 何回もある	8	63	24	63	24	5	11	5	66	18	5	4	4	4	37	37	22	
少しある	8	64	24	64	24	4	14	4	67	17	3	4	4	4	39	45	13	
全くない	4	78	17	78	17	0	26	0	61	13	0	0	4	4	48	39	9	

い」というイメージが過半数を越えるが、会話経験が少ないほどそのように捉えられており、反対に会話経験が多い回答者に「少し礼儀に欠ける」、或いは「非常に礼儀に欠ける」というイメージが出来上がっていることが分かる。

また、女性回答者よりも男性回答者の方が厳しい評価をしており、10%の差が認められる。

「公正」については、「少し公正」が65%、「非常に公正」の12%と合わせて77%が「公正」という肯定的イメージを形成している。なお「非常に公正」という評価は警察官との会話経験の多い人に認められる傾向である。回答に性差はない。

「融通」については、「少し融通がきかない」が42%と最も多く、次いで「少し融通がきく」となっている。男性警察官は「融通がきかない」というイメージは強く、「少し」と「非常」を合わせると6割弱に達している。

「少し融通がきく」というイメージは警察官と会話経験がある人の間で強く、同時に、「非常に融通がきかない」というイメージも会話経験が多いほど強い。恐らく、警察官にも色んな人がおり、また接触理由も多様であるために、回答者の思うようにならなかった場合にこのような判断になるのであろう。

「明るさ」については、「少し明朗」が54%、「非常に明朗」6%を加えると6割が男性の警察官を「明朗」ととらえている。

会話経験との関係は、経験の多い人ほど男性警察官を「明朗」と捉え経験のない人ほど「陰気」と捉える傾向がある。とくに「少し陰気」というイメージにおいて会話触経験の有無の差は大きく、会話経験が「何回もある」人と「全くない」人との差は14ポイントに達している。会話経験があれば「陰気」というイメージが弱まるのであれば、警察にとって好ましいことである。

「信用できる」について、回答は「少し信用できる」に集中している。「少し信用できる」は会話経験の多い人の間で、反対に「少し信用できない」は会話経験の全くない人の

間に見られる傾向である。

「いばっているかどうか」については「すこし威張っている」が49%、「非常にいばっている」が15%と64%の回答者がいばっているというイメージを抱いている。「非常にいばっている」というイメージは会話経験の多い人にみられ、「少しいばっている」は会話経験の全くない人ほど形成しているイメージである。

「やさしい」というイメージは会話経験とは関係ないという結果になっている。

「親切-不親切」については「少し親切」(64%)と「非常に親切」(8%)を合わせて回答者の72%が「親切」というイメージを形成している。とくに女性回答者に一層強く認められる傾向である。また会話経験のない人ほど、「親切」と捉えている。

「頼りになる-ならない」については66%が「少し頼りになる」としており、「非常に頼りになる」(13%)とあわせて回答者のほぼ8割が男性警察官は頼りになると受け止めている。会話経験との関係では、経験の全くない人ほど「非常に頼りになる」ととらえ、会話経験の多い人ほど「頼りにならない」と受け止めていることは問題である。

「カッコよさ」という点では、「非常にカッコよくない」が15%、「少しカッコよくない」が43%と58%がよくないととらえている。会話経験のない人の方が「カッコいい」と捉える傾向がある。特に男性回答者がカッコよくないと思っており、女性回答者との差は10ポイントにもなっている。

全体に同性をみる目はきびしくなるのか男性回答者のイメージの方が女性回答者が抱くイメージより否定的になっている。

#### (5) 「女性警察官」のイメージ

同じ警察官であっても女性警察官は男性警察官とはいくつかの点でかなり違うイメージをもたれていることが明らかになった(図表2-5参照)。

図表2-5 女性警察官のイメージ

	礼儀正しい				公正				融通がきく					
	非常に礼儀正しい		少し礼儀正しい		非常に公正		少し公正		非常に融通がきく		少し融通がきく		非常に融通がきかない	
	非常に正しい	少し正しい	非常に欠ける	少し欠ける	非常に不正	少し不正	非常にがきく	少しがきく	非常にがきかない	少しがきかない	非常にがきかない	少しがきかない		
全体	17	58	20	5	23	54	18	6	1	18	42	39		
男性	18	54	22	7	23	50	21	7	1	14	42	43		
女性	16	63	17	4	23	57	14	5	2	22	42	34		
会話経験	15	54	22	9	23	51	19	8	2	17	37	45		
何回もある	18	59	19	4	24	54	17	6	1	19	44	36		
少しある	22	70	9	0	9	70	22	0	0	22	39	39		
全くない														

	明朗				信用できる				威張る					
	非常に明朗な		少し明朗な		非常に信用できる		少し信用できる		非常に威張る		少し威張る		非常にやさしい	
	非常に明朗な	少し明朗な	非常に陰気な	少し陰気な	非常に信用できる	少し信用できる	非常に信用できない	少し信用できない	非常に威張る	少し威張る	非常にやさしい	少しやさしい		
全体	11	56	27	7	15	57	21	7	10	39	44	7		
男性	12	55	27	6	12	57	23	9	12	36	43	10		
女性	9	57	27	7	19	59	18	4	9	41	46	4		
会話経験	12	53	23	12	14	56	19	12	14	39	39	9		
何回もある	11	58	27	5	16	58	22	5	9	39	46	6		
少しある	4	48	44	4	17	61	17	4	0	39	48	13		
全くない														

	親切				信用できる				カッコいい					
	非常に親切		少し親切		非常に頼りになる		少し頼りになる		非常にカッコいい		少しカッコいい		非常によくない	
	非常に親切	少し親切	非常に不親切	少し不親切	非常に頼りになる	少し頼りになる	非常に信用できない	少し信用できない	非常にカッコいい	少しカッコいい	非常によくない	少しよくない		
全体	12	58	24	6	4	45	39	12	8	51	29	12		
男性	14	53	25	8	4	40	41	15	8	47	33	13		
女性	11	62	23	5	5	50	37	9	8	55	26	11		
会話経験	13	56	23	9	4	45	34	17	8	47	28	17		
何回もある	12	59	24	5	5	45	41	10	8	52	30	10		
少しある	9	57	26	9	0	44	39	17	9	57	22	13		
全くない														



まず、「礼儀正しさ」については、男性警察官以上に「礼儀正しい」と思われている。また、女性回答者の評価の方が若干好意的である。会話経験とのクロスを見ると、「全くない」人ほど女性警察官を「非常に礼儀正しい」あるいは「少し礼儀正しい」と肯定的に捉えており、反対に会話経験の何回もある人ほど「少し」あるいは「非常に礼儀に欠ける」と否定的に捉えている。

女性警察官は「非常に公正」と思われることが男性警察官よりも10ポイントほど多くなっているが、「少し公正」という評価までを含めると男女の警察官の差はなくなる。この項目についても女性回答者の評価の方が若干甘い。会話経験との関係は明らかではない。

「融通がきくかどうか」という点については、女性警官は「融通がきかない」という評価が男性警官に対するよりも22ポイントも多く、回答者の8割以上が女性警察官は「融通がきかない」と捉えている。女性警官の方が杓子定規に規則を解釈する傾向が強いせいかもしれない。しかし、女性の回答は男性の回答に比べて「非常に融通がきかない」という評価が9ポイントほど少ない。

「明朗」については「少し明朗」が過半数を占める結果になっており、男性警察官との差は得られていない。回答者間にも性差はない。「非常に明朗な」あるいは「非常に陰気な」という極端なイメージは何回も会話経験のある回答者に特徴的である。恐らく、実際に接触していくうちに女性警察官次第で内容の異なるイメージが形成されるが、それは接触によって一層明確なものとなるのだろう。

「信用できるかどうか」については、男性警察官のイメージとほぼ等しく、「少し信用できる」（57%）と「非常に信用できる」（15%）合わせて7割以上が信用できるとしている。ここでも男性回答者の評価の方が厳しくなっている。全く会話経験がない人に「信用できる」というイメージができあがっており、会話経験が何回もある人に「非常に信用できない」というイメージが認められることは気になる点である。

「いばっているかやさしいか」という点では男性警官がいばっているというイメージで

とらえられているのに対し、女性警察官は男性よりも「少しやさしい」「非常にやさしい」と受け止められていることがわかる。回答者の性による違いはない。会話経験のある人ほど「いばっている」と受け止め、ない人ほど「やさしい」と受け止めている。

「親切」に関しては、男性警察官と同じようなイメージが抱かれており、回答者の7割が「親切」という評価をしている。また、女性回答者の方が男性回答者よりも若干好意的な評価をしているが、会話経験との関係ははっきりしない。

「頼りになる・ならない」では女性警察官より男性警察官の方がずっと「頼りになる」という評価をされており、女性警察官の5割に対し男性警察官は8割弱となっている。一方、女性警察官の場合は「頼りにならない」というイメージが5割を超え、男性の2割に比べて女性警察官は「頼りにならない」というイメージが出来上がっていることがわかる。特に男性回答者にその傾向が強い。女性警察官を増やすためには解決すべき課題であろう。

「カッコよさ」については女性警察官の方が男性警察官よりも「カッコいい」と思われている。女性回答者にそのように捉える傾向が強い。会話経験がない人ほど「カッコいい」と捉えていることを示す弱い傾向が認められる。

### 3. 警察とジェンダー

#### (1) 女性警官の比率予測

まず、警察官のうち女性警察官が占める割合を予測してもらった。実際には地域差が大きいですが、結果は、女性警察官の比率が1割と予想した人が37%と最も多く、ついで2割の34%、3割の22%、4割以上が7%であった。予測結果に男女差はほとんどない。

男女回答者とも若い世代ほど女性警察官の比率予測が若干高い傾向がある。

なお、現実の女性警察官の割合は平成10年4月1日現在、全警察官のうちの僅か3.5%に過ぎず、一般市民の予測とは大きくずれる。地域差も大きく、最高は埼玉県警察の5%、最低は島根県警察の1%である。また、警視庁は4.4%となっている。

## (2) 女性警察官に向く仕事

「男性と全く同じ仕事」「違反処理など比較的安全な仕事」「配慮や人当たりのよさが求められる仕事」「非行対策や保護など少年に関わる仕事」「広報など市民との融和をはかる仕事」「雑踏警備・交通整理などの仕事」「各種犯罪の捜査活動」「署内での事務的な仕事」の8項目それぞれについて、まず、「女性警察官に向く仕事」かどうかを問い、次いで「女性警察官がやるべき仕事」かどうかを質問した。

女性警察官に最も向く仕事とされたのは、「配慮や人当たりのよさが求められる仕事」であり、次いで「広報など市民との融和をはかる仕事」、「違反処理など比較的安全な仕事」の順であった。選ばれることが最も少なかったのが「男性警官と全く同じ仕事」(15%)であった。向き、不向きを考えればこのような結果になるが、一度警察官になったからには向くかどうかはさて置き、女性警察官がやるべき仕事があるものと思われ、それはどのようにうけとめられているのだろうか。

## (3) 女性警察官がやるべき仕事

上記の向き・不向きを調べるために用いたものと同一の8項目それぞれについて、「やるべき仕事」であるかどうかを尋ねた。

結果は、「非行対策や保護など少年に関わる仕事」を除くと、向き・不向きの判断とは

かなり異なり、全般により男女平等志向が窺える。

「男性警察官と全く同じ仕事」が女性警察官にも向くという判断は15%であったものが、回答者の38%が「やるべき仕事」と判断しているし、「各種犯罪の捜査活動」は19%から37%へと増えている。

反対に、最も女性向きとされた「配慮や人当たりのよさが求められる仕事」は72%から65%に下がり、「広報など市民との融和をはかる仕事」は66%が58%へ、「違反処理など比較的安全な仕事」は58%から41%へと17ポイントも下がり、「署内での事務的な仕事」は49%から34%へと15ポイント下がったように、女性警官に向くとは思えなくても男性同様やるべき仕事であるとされている。

回答者の年齢による違いは若い人ほど平等志向を示しており、また性による違いをみると女性回答者が女性警官に向いており、同時にやるべき仕事として「非行少年対策や保護など少年に関わる仕事」をあげる傾向が強く、性差は「向く仕事」では10ポイント、「やるべき仕事」では15ポイントとなっている。更に、女性回答者は女性警官が「やるべき仕事」として「各種犯罪の捜査活動」をあげる割合が男性回答者よりも10ポイントほど多くなっている。この項目からまず思い浮かぶ具体的捜査活動は殺人などの刑事事件であろう。この項目に関して回答者にみられる男女差には男性と同じようにプロとして活躍してほしいという同性の警官に対する女性たちの期待と応援がこめられているのではないだろうか。

会話経験とのからみでは、図表3-1に示すように、経験の多い回答者ほど平等志向が強いと同時に、比較的安全であったり気配りをもとめられる仕事もやるべきだとしており、どんな仕事であっても女性警官がやるべきと考えていることが明らかで、女性警官が一層求められているといえる。

図表 3—1 女性警察官がやるべき仕事

	会話経験		
	何回もある	少しある	全くない
男性警官と全く同じ仕事	40	38	35
比較的安全な仕事	43	42	26
配慮が求められる仕事	63	66	48
少年に関する仕事	54	54	35
市民との融和をはかる仕事	59	59	35
雑踏警備・交通整理	29	29	17
各種犯罪の捜査活動	41	36	26
署内での事務的工作	39	33	26

(4) 警察官の男女比の理想形

警察官男女の構成比が男10：女0から男0：女10までの11種類の組み合わせについていずれを理想とするかを選ばせた。その結果、最も多かったのが回答者の4割が選んだ男7：女3の組み合わせであった。ついで男6：女4（27%）、男8：女2（15%）、男5：女5（14%）となっている。

理想の構成比はこのようになっているが、切り口を変えて、女性警察官は現状のままがいいか、減らした方がいいか、あるいはどの程度増やした方がいいかを質問した。結果は図表3—2の通り、女性警官を10%増やすことに賛成する人が最も多く、回答者の3割となっている。次いで多いのが20%増を希望した27%、現状でよいとする者2割、30%以上増加することを希望した18%となっており、減少希望は5%以下にとどまっている。

男女の構成比からみても現状をどう変えたら良いかという点からみても、女性警察官を増やすことが望まれていることは明白である。

図表 3—2 女性警察官の比率

	減少希望	現状理想	10%増加	20%増加	30%以上増加
全体	5	20	30	27	18
男	5	23	27	26	19
女	4	18	32	29	17
会話経験					
何回もある	6	23	34	21	17
少しある	4	20	28	29	19
全くない	9	4	44	39	4